

## 第34講 フランス革命

1989年のベルリンの壁崩壊と1991年ソ連邦の崩壊は、「平等」を理念として掲げた人類の歩み方の限界を明らかにした。ソ連邦を産み落としたロシア革命を第2次平等革命とみなし、そのプロトタイプ（範型）であるフランス革命を第1次平等革命と呼ぶのは妥当であろう。

フランス革命の基礎知識として、まず、①<sup>(1)</sup> [ ] → ②<sup>(2)</sup> [ ] → ③<sup>(3)</sup> [ ] → ④<sup>(4)</sup> [ ] → ⑤<sup>(5)</sup> [ ] と覚え、①～④がフランス革命、③～⑤が第1共和政だと把握する。次いで<sup>(6)</sup> [ ] 派が立憲君主主義派、<sup>(7)</sup> [ ] 派と<sup>(8)</sup> [ ] 派が共和主義派。

革命前の体制を<sup>(9)</sup> [ ] (旧体制) という。

ルイ14世以来の国家財政の窮迫、<sup>(10)</sup> [ ] への参加、英仏通商条約(1786)、天候不順(1788)でブルボン家の国家財政は完全に破綻した。

【三部会招集と国民議会成立】<sup>(11)</sup> [ ] の自由主義的改革による財政改革、<sup>(12)</sup> [ ] の特権身分への課税の主張なども効を奏さず、<sup>(13)</sup> [ ] 年5月に174年ぶりに<sup>(14)</sup> [ ] を召集したが議決方法で対立した。6月、<sup>(15)</sup> [ ]、ラファイエット、『<sup>(16)</sup> [ ]』を出版した<sup>(17)</sup> [ ] から自由主義貴族(フイヤン派)に下級僧職者が加わって<sup>(18)</sup> [ ] の成立を宣言、<sup>(19)</sup> [ ] で「憲法を制定するまで解散しない」と誓う。国民議会は<sup>(20)</sup> [ ] と改称した。つまりフランス革命の当初の目標は、立憲君主政体にすることだった。その証拠に国民議会が定めた三色旗(トリコロール)の真ん中の白はブルボン家の色だ。ちなみに赤と青はパリ市の色。

【革命勃発】<sup>(21)</sup> [ ] 月<sup>(22)</sup> [ ] 日に<sup>(23)</sup> [ ] が起き、それが全国に波及、農民運動となって領主の館を襲い、租税台帳などを焼いた(大恐怖)。8月4日には<sup>(24)</sup> [ ] がなされた。農奴は領主裁判権や十分の一税などの封建的身分支配からは解放され(政治的には自由)だが、地代は20～25年分の一括前納だったので自作農にはなれなかった。8月26日には<sup>(25)</sup> [ ] が採択。これは<sup>(26)</sup> [ ] や<sup>(27)</sup> [ ] の啓蒙思想の影響を受け<sup>(28)</sup> [ ] らが起草した17条からなるもので<sup>(29)</sup> [ ] の神聖不可侵、人間の自由と平等などが謳われている。<sup>(30)</sup> [ ] = <sup>(31)</sup> [ ] では国王一家がパリのテュイルリー宮に連行された。

### 解答

- (1) 国民議会 (2) 立法議会 (3) 国民公会 (4) 総裁政府 (5) 統領政府  
 (6) フイヤン (7) ジロンド (8) ジャコバン (9) アンシャン＝レジーム  
 (10) アメリカ独立戦争 (11) テュルゴール (12) ネットケル (13) 1789 (14) 三部会  
 (15) ミラボー (16) 第三身分とは何か (17) シェイエス (18) 国民議会  
 (19) テニスコート (20) 憲法制定議会 (21) 7 (22) 14  
 (23) バスティーユ牢獄襲撃 (24) 封建的特権の(有償)廃止宣言  
 (25) 人権宣言(人間および市民の権利宣言) (26) アメリカ独立宣言 (27) ルソー  
 (28) ラファイエット (29) 所有権＝私有財産 (30) 十月事件 (31) ヴェルサイユ行進

国民議会では立憲君主主義者が優勢で、教会財産の国有化と聖職者の公務員化により、その土地を担保に<sup>(32)</sup>〔 〕を発行、貴族の称号や<sup>(33)</sup>〔 〕を廃し、同時に<sup>(34)</sup>〔 〕により労働者の団結を禁止した。

1791年4月に王室と国民議会のパイプ役<sup>(35)</sup>〔 〕が死に国王は動揺<sup>どうよう</sup>、立憲君主政の原則を無視し近隣諸国の君主国と画策<sup>かくさく</sup>し、6月には<sup>(36)</sup>〔 〕が起きると、<sup>(37)</sup>〔 〕が台頭した。8月にはマリー・アントワネットの兄のオーストリア皇帝がプロイセン王と共に<sup>(38)</sup>〔 〕を出し革命に干渉<sup>かんしょう</sup>、これがフランス人の愛国心を高揚<sup>こうよう</sup>させ革命戦争の誘因となった。

【立法議会】1791年9月に<sup>(39)</sup>〔 〕が制定され国民議会は解散した。この憲法は一院制の立憲君主制で財産による制限選挙で、身分制の廃止、経済自由の原則が謳<sup>うた</sup>われているブルジョワ憲法で<sup>(40)</sup>〔 〕や貧農は政治から除外されていた。1791年10月<sup>(41)</sup>〔 〕が召集された。当初は<sup>(42)</sup>〔 〕、<sup>(43)</sup>〔 〕ら立憲王政派で自由主義貴族や富裕市民の<sup>(44)</sup>〔 〕が主導権を握っていたが、<sup>(45)</sup>〔 〕や<sup>(46)</sup>〔 〕らが中心で商工業市民が支持する穏健共和派<sup>おんけん</sup><sup>(47)</sup>〔 〕が次第に主導権を掌握した。

<sup>(48)</sup>〔 〕を首班とするジロンド派内閣はオーストリアに宣戦布告し、オーストリアとプロイセンが侵入し革命戦争勃発、しかしフランスは連戦連敗、祖国の危機に義勇兵が召集され、工兵大尉ルージュ＝ド＝リールが<sup>(49)</sup>〔 〕を作曲した。革命の進展に不満を持つ義勇兵と民衆が<sup>(50)</sup>〔 〕の指導で<sup>(51)</sup>〔 〕を襲撃、この1792年<sup>(52)</sup>〔 〕で王権が停止、立法議会は自ら解散、革命の推進力は下層階級になる。

9月20日の<sup>(53)</sup>〔 〕の戦いでプロイセンの職業軍人に勝利、「ここから、そしてこの日から世界史の新しい1ページがはじまる」と<sup>(54)</sup>〔 〕は言った。「王家」の常備軍に一般市民から徴用された「国民」軍が勝利した。国民主義、国民国家の時代（19～21世紀）の幕開けだ。

【国民公会】9月21日、男性普通選挙による<sup>(55)</sup>〔 〕が召集、王政が廃止され共和政宣言、フランス<sup>(56)</sup>〔 〕の成立である。ジャコバン派が台頭し、1793年1月には<sup>(57)</sup>〔 〕をジャコバン派<sup>(58)</sup>〔 〕の扇動によりコンコルド広場で<sup>(59)</sup>〔 〕の罪状で処刑。革命軍のオーストリア＝ハプスブルク領の南ネーデルラント（現在のベルギー）への侵略はイギリスの<sup>(60)</sup>〔 〕首相に<sup>(61)</sup>〔 〕を結成を決意させる。フランス革命勃発の翌年の1790年に、イギリスの<sup>(62)</sup>〔 〕は『フランス革命の省察』で隣国の暴挙を無視する保守主義の原点ともいえる立場を表明していた。しか

### 解答

- (32) アシニア紙幣 (33) ギルド (34) ル＝シャプリエ法 (35) ミラボー  
 (36) ヴァレンヌ逃亡事件 (37) 共和主義 (38) ピルニッツ宣言 (39) 1791年憲法  
 (40) サン＝キュロット (41) 立法議会 (42) ラファイエット (43) パルナープ  
 (44) フイヤン派 (45) コンドルセ (46) ロラン夫人 (47) ジロンド派  
 (48) ブリッソ (49) ラ＝マルセイエーズ (50) ジャコバン派 (51) テュイルリー宮殿  
 (52) 8月10日事件 (53) ヴァルミー (54) ゲーテ (55) 国民公会  
 (56) 第1共和国 (57) ルイ16世 (58) サン＝ジェスト (59) 人民の敵 (60) ピット  
 (61) 第1回対仏大同盟 (62) エドモンド＝バーク

しもはや関与せざるを得なくなったのである。

国民公会により徴兵制が決定すると、カトリック教徒が多くて革命に否定的なヴァンデー県の農民が反乱を起こし多数が虐殺された。

【恐怖政治】1793年2月、<sup>(63)</sup>〔 〕が実施された。5月、「金持ちは人民の災いである」というジャコバン派の急進派山岳党のロベスピエールは生活必需品に<sup>(64)</sup>〔 〕を出した。6月、ジャコバン派がジロンド派を追放し独裁体制に。<sup>(65)</sup>〔 〕が政治、戦争の最高指導機関つまり事実上の政府で、<sup>(66)</sup>〔 〕が治安、警察機関、<sup>(67)</sup>〔 〕で政治犯が審理された。また、主権在民、人民の生活権、労働権などを定めた男性普通選挙制の<sup>(68)</sup>〔 〕=<sup>(69)</sup>〔 〕が発表されたが実施はされなかった。

7月には<sup>(70)</sup>〔 〕が宣言され、自作農が創設されたので以後農民は革命に消極的になる。10月、<sup>(71)</sup>〔 〕が採用され、11月、極左派の<sup>(72)</sup>〔 〕の主張で<sup>(73)</sup>〔 〕が崇拜されノートルダム寺院も「理性の殿堂」にかえられてしまった。しかし、エベールの処刑に伴い<sup>(74)</sup>〔 〕は、「テニスコートの誓い」や後に「ナポレオンの戴冠式」を描く画家<sup>(75)</sup>〔 〕が演出した<sup>(76)</sup>〔 〕の崇拜に切り替えて無神論ではないことを表明した。また、<sup>(77)</sup>〔 〕実施を準備（正式採用は1799年から）した。

ロベスピエールの独裁により、右派の<sup>(78)</sup>〔 〕極左の<sup>(79)</sup>〔 〕王妃<sup>(80)</sup>〔 〕や<sup>(81)</sup>〔 〕、<sup>(82)</sup>〔 〕、<sup>(83)</sup>〔 〕らが処刑され、コンドルセは毒をあおいで自殺した。

【テルミドールの反動→総裁政府】1794年7月の<sup>(84)</sup>〔 〕で<sup>(85)</sup>〔 〕が逮捕、処刑された。背景には、公安委員会の内紛、自作農化した農民の保守化、ブルジョワジーの最高価格令への不満がある。結果として、旧ジロンド派テルミドリアン=テルミドール派が実権を握った。

<sup>(86)</sup>〔 〕年、かれらブルジョワによる穏健な共和政を志向する<sup>(87)</sup>〔 〕が成立するが、これは制限選挙、二院制、5人総裁制で中産階級のブルジョワ社会に回帰した。10月に<sup>(88)</sup>〔 〕が成立するが、これが自由経済政策をとったので下層市民、農民が離反、ジャコバン憲法施行を求める暴動が多発したり、ナポレオンが鎮圧した<sup>(89)</sup>〔 〕の反乱や「私有財産—それは罪である」と言った共産主義者<sup>(90)</sup>〔 〕の陰謀があったりと、総裁政府は不安定であった。このようなわけで強力なリーダーシップが待望されるようになる。ナポレオンの登場だ。

### 解答

- (63) 徴兵制 (64) 最高価格令 (65) 公安委員会 (66) 保安委員会 (67) 革命裁判所  
 (68) 1793年憲法 (69) ジャコバン憲法 (70) 封建的特権(貢租)の無償廃止  
 (71) 革命暦 (72) エベール派 (73) 理性 (74) ロベスピエール (75) ダヴィド  
 (76) 最高存在 (77) メートル法 (78) ダントン (79) エベール  
 (80) マリー=アントワネット (81) ロラン夫人 (82) バルナーブ (83) ラボアジェ  
 (84) テルミドール9日のクーデタ (85) ロベスピエール (86) 1795  
 (87) 1795年憲法=共和国第3年憲法 (88) 総裁政府 (89) 王党派 (90) パブーフ

## 第34講 テスト

1 古い順に並べかえた場合に3番目にくるのは。

- ① ヴァルミーの戦い
- ② ヴァレンヌ逃亡事件
- ③ バブーフの陰謀
- ④ ヴェルサイユ行進

2 以下のうち、国民公会で初めて実施されたのではないもの。

- ① ギルド廃止
- ② 封建的特権の無償廃止
- ③ 理性崇拜
- ④ 徴兵制

3 以下のうち、立憲君主主義者は。

- ① トマス＝ペイン
- ② ロベスピエール
- ③ ラファイエット
- ④ ロラン夫人

4 1783年にネッケルの後任として財務総監に就任したが、特権身分への課税を主張し失脚、イギリスに亡命したのは。

- ① テュルゴー
- ② カロンヌ
- ③ シェイエス
- ④ ピット

5 ジャコバン＝クラブの最左派、山岳派の革命家で、ジロンド派追放を主導したが、ジロンド派支持者の女性に暗殺されたのは。

- ① マラー
- ② ダントン
- ③ エベール
- ④ ミラボー

### 第34講 テスト解答

1 ①      2 ①      3 ③      4 ②      5 ①